

美の観賞会だより 第5号

令和4年6月23日

秋山卓男

美の原点 (5) 風

2006年の大晦日、NHK紅白歌合戦でテノール歌手秋川雅史が「千の風になって」(新井満(1946～2021)訳詩、作曲)を歌うと視聴者は感激に満たされた。歌唱力の素晴らしさと歌詞の卓越さに感動したのだ。浄土教では往相回向(おうそうえこう)還相回向(げんそうえこう)という。往相回向とは、弥陀の本願の成就によって衆生の死後、西方(さいほう)彼方の浄土行きは決定(けつじょう)しているということであり、還相回向とは、浄土で悟りを得たら瞬時にこの世に全存在となって戻ってくるということである。歌詞が日本人の深層意識にある、この死生観と共鳴するところがあって反響を呼んだのであろう。この歌は翌年の日本レコード大賞作曲賞を受賞している。「千の風」とはなんと力強い表現であることか

さて、今回のテーマは風である。佛教では、全存在を地水火風空の五大として捉え、その中に風がある。宮本武蔵はこれを参考として五輪の書を著した。

美術での風は、風景の風であり風物の風であろう。西洋での美術は人間を描くことから始まり、風景の描写は後となった。東洋では風景は山水画として描かれ、人物はその一部として描かれてきた。したがって風景画は東洋に優れたものが多い。

雪舟(1420～1502又は1506)は日本最高の山水画家として尊ばれている。「天橋立図」「秋冬山水図」「四季山水図巻」「破墨山水図」「慧可断臂図」「山水図」の6点が国宝に指定されている。彼は、「風景こそ最大の師」と言っている。特に「秋冬山水図」のうち秋景は、近景、中景、遠景のバランスが見事で非の打ち所がない。また作庭にも長じており各地に庭園が残っている。

歌川広重(1797～1858)は江戸時代の浮世絵師である。東海道五十三次絵は傑作である。特に白い雪が山、屋根、道に積もった『蒲原』は、素晴らしい。名所江戸百景の「大はしあたけの夕立」は、大きな橋を渡っていると突然雨が降り出し、走り出した人と雨が細い線で描かれ、夕立を見事に描写している。彼の風景画はゴッホやモネなどの西洋の画家にも影響を与えた。

東山魁夷(1908～1999)は、日本画家で、唐招提寺障壁画で有名である。若いころなかなか芽が出なかったのであるが、1950年に開催された第6回日展に出品された「道」が高い評価を受け、風景画家として安定した地位を確立した。「道」は単なる写実ではなく、考えに考え抜いた結果の作品であり、高い精神性を感じずる作品である。彼は、本作品について「遍歴の果てでもあり、また新しく始まる道でもあり、絶望と希望を織りまぜてはるかに続

く一筋の道であった。・・・そして遠くの丘の上の空をすこし明るくして、遠くの道がやや右上がりになり画面の外に消えていくようにすることによって、これから歩もうとする道という感じが強くなった」と述べている。1969年文化勲章を受章している。

中川一政（1893～1991）は1949年に神奈川県真鶴町にアトリエを持った。彼は現場に赴いて実際に見たものから湧き出る感動をキャンパスに描いた。この方法はゴッホと同じである。真鶴岬の真鶴の海、湯河原の小さな漁村福浦、箱根の駒ヶ岳を数拾年に渡り繰り返し繰り返しかいている。セザンヌがサント・ヴィクトワール山の連作に数年に渡り取り組んだのと同じである。



東山魁夷「道」

アトリエでは、薔薇、向日葵、椿等の静物画を描いた。彼は気韻生動を重視した。作品の中にエネルギーがほとばしる生き生きとした動きを重視した。1975年に文化勲章を受章している。

ポール・セザンヌ（1839～1906）は、フランスの画家で近代絵画の父と呼ばれている。当初は印象派のグループの一員として活動していたが、1880年代からグループを離れ伝統的な絵画の約束事にとらわれない独自の絵画様式を探求した。「自然を円筒、球、円錐によって扱う」「緊張感をはらんだ歪み（デフォルマシオン）」「自然にならって絵を描くことは対象を模写することではない。いくつかの感覚を実現させることだ」の言葉を残している。

彼は、サント・ヴィクトワール山を、数年にわたり繰り返し繰り返し野外で描いている。現物から受ける感動を描くことを基本にしているが、さらにそれを頭の中で再構築して描くところに近代絵画の父と呼ばれる所以がある。「果物籠のある静物」「果物入れ、グラス、リンゴ」「リンゴの籠のある静物」「リンゴとオレンジのある静物」「サント・ヴィクトワール山」がある。

フィンセント・ファン・ゴッホ（1853～1890）は、37歳という短い生涯に多くの傑作を残した。物から直接湧き上がる感動をキャンパスに鮮烈な色彩で表している。一時一緒に暮らしたゴーギャンからは、写生だけではなく自分の考えを入れて画面を構成することを進言されたが賛同しなかったという。中川一政のいう気韻生動ということは知らなくても、彼の作品は気韻生動そのものである。すべての画面が生きている。

風景画では「二本の糸杉」「星月夜」「夜のカフェテラス」「オーベルの教会」

静物画では、「ひまわり」「アイリス」がある。

次号は、美の原点（6）月を発行いたします。